

「こおりやまの米」通信

GOOD RICE DAY
毎月8日は
こおりやま「お米の日」

編集：郡山市

JA福島さくら郡山統括センター (Tel. 024-921-0503)

NOSAI福島 中央支所 (Tel. 024-933-3307)

県中農林事務所農業振興普及部 (Tel. 024-935-1310)

発行：郡山市農作物生産対策協議会

(郡山市園芸畜産振興課 Tel. 024-924-3761)

Vol. 3 田植後～本田初期管理

* 過去の記事は郡山市ホームページから見る事が出来ます。

こおりやまの米通信

検索

豊かな自然と気候に恵まれた、
県内一の米どころである郡山の
美味しいお米をたべましょう！

1 本田初期の水管理 ～還元障害軽減のために～

活着後は水深3cm程度の浅水管理とし、分けつを促進してください。

異常還元(ガス湧き)が発生したら、数日間落水し、土壌中に酸素を供給してください。なお、生育促進のための窒素追肥は倒伏のおそれが高まるので厳禁です。

2 雑草防除 ～除草剤散布はノビエの葉齢を確認～

除草剤は、散布してから処理層を形成し、効果を発揮するまで4～5日程度かかります。ほ場のノビエの葉齢が、除草剤の効く最大葉齢より0.5葉(2～3日)くらい前の時期に散布するとより効果的です。散布時は湛水状態を保てるよう十分に深水とし、7日間は止水してください。

一発除草剤の散布後に雑草が残った場合は、雑草の種類によって除草剤を選択し、適期に追加防除してください。

ノビエだけが残った場合

⇒クリンチャーEW: 移植後20日～ノビエ6葉期(但し、収穫30日前まで): 100ml/10a希釈水量25～100L/10a

⇒ヒエクリーン1キロ粒剤: 移植後15日～ノビエ4葉期(但し、収穫45日前まで): 1kg/10a湛水散布

ノビエ以外の雑草も残った場合

⇒アトリ1キロ粒剤: 移植後14日(稲5葉期以降)～ノビエ4葉期(但し、収穫45日前まで): 1kg/10a湛水散布

広葉雑草だけが残った場合

⇒バサグラン粒剤(ナトリウム塩): 移植後15～55日(但し、収穫60日前まで): 3～4kg/10a落水散布、又はごく浅く湛水して散布

熱中症にご注意！！

曇りや雨の日でも熱中症になる可能性があります。こまめな休憩と水分補給を意識的に行うよう心掛けてください。



藻類・表層はく離対策

気温の高い年は発生量が多く、多発すると初期生育の抑制や除草剤の拡散を阻害するなどの害があります。また、直播栽培では苗立不良の原因ともなります。水深が深いほど発生量が多くなるので、浅水管理としてください。

【対策1】除草剤

農薬登録で適用のある一発除草剤(バッチリLX1キロ粒剤等)を発生前に使用し発生を抑制する。

発生した場合には、モグトン粒剤を湛水散布する。散布量は、藻類には2～3kg/10a、表層はく離には1～2kg/10aです。

【対策2】水の入・排水

藻類: ほ場の水を入れ替える。

表層はく離: 田面水を排出し、2～3日後に土壌が落ち着いてから入水する。

【対策3】天候に応じ様子を見る

表層はく離は、梅雨に入ると雨に打たれ自然に消滅します。また、藻類は水温が30℃を超えると死滅します。

【対策4】来年に向けて

リン酸やケイ酸が多いと発生が多くなるので、土壌分析を実施し過剰な施肥は避けてください。また、全層施肥から側条施肥への変更により発生が減少します。

水持ちが良すぎる場合も発生が多くなるので、過剰な耕起や代かきは避けてください。

【農薬の適正使用をお願いします】

- 使用時は農薬ラベルの使用法を確認してください。
- 農薬の使用履歴をその都度記入してください。
- 水稻育苗ハウスの後作で野菜類を栽培する場合には、育苗ハウス内で苗箱処理剤を使用する際には、土壌に移行しないように散布してください。

3 中干し

～有効茎が確保されたら、遅れずに実施してください～

中干しは、無効茎の抑制により茎を太くする効果や、還元状態となっている土壤に酸素を供給し根の活力を高める効果により、登熟の向上を期待して実施します。

近年、開始が遅れているほ場が多く見られるので注意してください。特に出穂の早いふくひびきは、中干し終了の時期も早くなるので、中干し期間を確保するために開始が遅れないようにしてください。

中干し開始は、有効茎を確保した時となりますが、葉鞘に隠れて確認できない茎を考慮し、有効茎数の8割程度を確認できたら速やかに開始してください。

有効茎数は品種や栽培方法により異なりますが、㎡当たり、コシヒカリ430本、天のつぶ460本、里山のつぶ480本、ひとめぼれ510本、ふくひびき380本前後です。

中干し開始の目安は栽植密度により変動し、株数が50株/坪で、目標とする有効茎数が450本/㎡の場合は、中干し開始は1株当たりの茎数24本が目安です。

茎数を確認する場合は、生育が旺盛な畦畔際を避け、数m入った場所の生育が平均的な株を数えてください。

表 中干し開始時の茎数の目安*

有効茎数(本/㎡)		350	400	450	500	550
株数(株/坪)	株間(cm)					
37	29.7	25	29	32	36	39
43	25.6	21	25	28	31	34
50	22.0	18	21	24	26	29
60	18.3	15	18	20	22	24
70	15.7	13	15	17	19	21

*有効茎数の8割となる株当たり茎数 (本/株)

4/1～5/31 春の農作業安全運動展開中！

春の繁忙期にはトラクターによる農作業事故が多く発生しています。次のポイントを守り、安全・安心な農作業を実践してください。

- 余裕を持った作業計画を設定する。
- 公道を走行する場合は、装着する作業機の大きさにより、大型特殊自動車免許(農耕車に限る)が必要です。
- 安全フレームを必ず立てて使用し、ヘルメット、シートベルトを着用する。
- 定期的に点検整備を実施する。
- 傾斜地や法面など危険な場所はあらかじめ確認し、慎重に作業する。
- 一人で作業を行う場合は、家族に行き先を伝える。

道路に泥を落とさないよう注意を！

公道に出る際には、機械についた泥などを落としてから走行するよう、お願いします。



4 いもち病対策

～置き苗の処分は終わりましたか？～

予防防除は地区全体で取り組むと効果が高まります。移植時に箱粒剤を使用していない水田では、フジワン粒剤(葉いもちに対しては初発10日前、穂いもちに対しては出穂10～30日前、但し収穫30日前まで)などを散布してください。

5 イネドロオウムシ対策

本田でイネドロオウムシが発生した場合は、マチオン粉剤3DL(3～4kg/10a)や、なげこみトレボン《水溶性容器4～6個(200～300ml/10a)》などで防除してください。

6 斑点米カメムシ類対策 ～越冬卵に注意～

越冬世代が成虫になる前の草刈りや除草剤の散布により、餌となる畦畔等のイネ科雑草を減らし産卵を抑制してください。そのためには、草刈り第1回目は成虫が増え始める5月下旬～6月上旬までに実施してください。特にアカスジカスミカメが好む、ナギナタガヤ、スズメノテッポウ、イタリアンライグラスの除草を徹底してください。

その後、月1回程度の草刈りを継続してください。ただし、出穂期前後はカメムシを水田内に追い込む場合があるので、草刈りは出穂10日前までとします。



刈り払い機の使用前には刈刃の損傷やネジ類のゆるみを確認してください。

【需要に応じた米の生産をお願いします】

主食用米の消費量は、全国で毎年約10万t(面積で約2万haに相当)減少しています。令和6年産米の価格安定のため、主食用米の作付けは昨年並みの面積となるよう作付転換への御協力をお願いします。

【転換作物の例】

- ①大豆などの畑作物、園芸作物等
- ②飼料用米、備蓄米、加工用米、輸出用米

【交付金の制度を活用】

転換作物に取り組む場合は、水田活用の直接支払交付金や経営所得安定対策(ゲタ対策)などの様々な制度が活用できます。

【飼料用米は多収品種で取り組む】

飼料用米に取り組む場合、一般品種では令和6年産以降、交付単価が段階的に引き下がります。収入確保のため、「ふくひびき」などの多収品種で取り組んでください。